

倶多楽の火山活動解説資料（平成 23 年 11 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図 1-①、図 2～5、図 8）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上 50m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。

4 日及び 9 日に実施した現地調査では、大正地獄は満水状態で少量の熱水流出が続いていました。2007 年以降泥混じりの熱湯の噴出が時々発生していますが、この現象は局所的なものであり、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

・ 火口及び山体内の熱の状況（図 6～7）

4 日及び 9 日に実施した現地調査では、日和山の噴気温度は 130℃ 前後で、2007 年以降、高温の状態を維持しています。大湯沼、地獄谷等の噴気や地表面温度分布には大きな変化はありませんでした。

・ 地震及び微動の発生状況（図 1-②）

今期間発生した火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

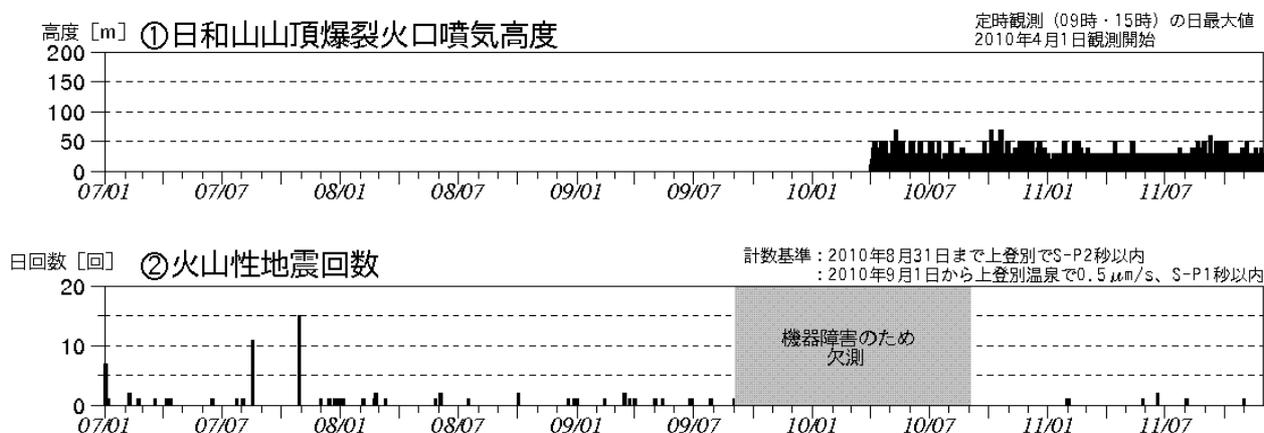


図 1 倶多楽 火山活動経過図（2007 年 1 月～2011 年 11 月）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※資料は気象庁のほか、北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。また、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 20 業復、第 647 号）。

今回の火山活動解説資料（平成 23 年 12 月分）は平成 24 年 1 月 10 日に発表する予定です。

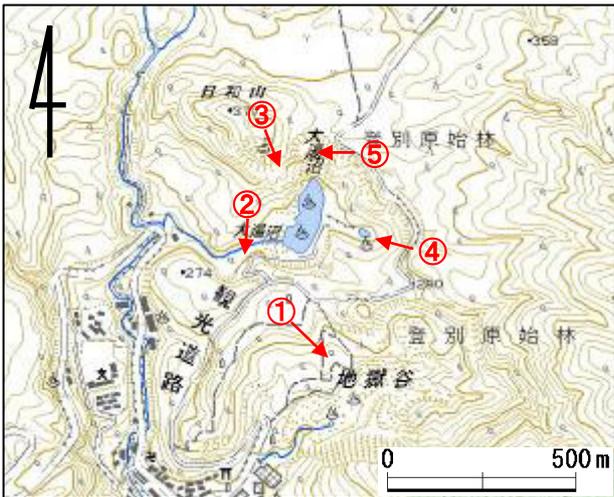


図2 倶多楽 日和山・地獄谷周辺図

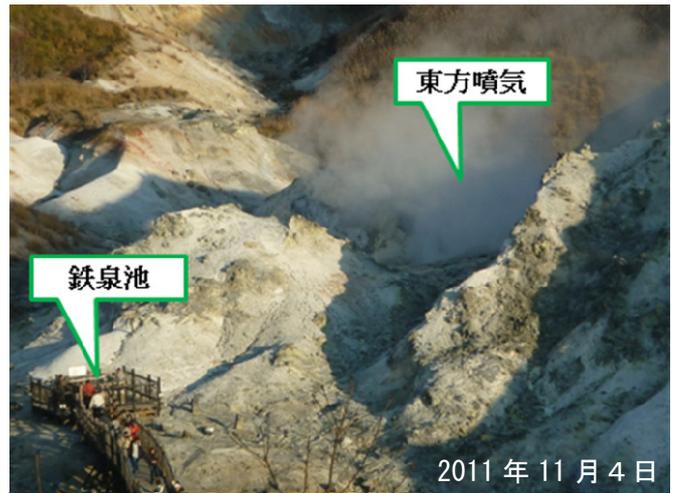


図3 倶多楽 地獄谷の状況
(図2の①方向から撮影)



図4 倶多楽 大正地獄の状況 (図2の②から撮影)



図5 倶多楽 大湯沼及び奥湯沼の状況 (左: 図2の③から撮影、右: 図2の④から撮影)

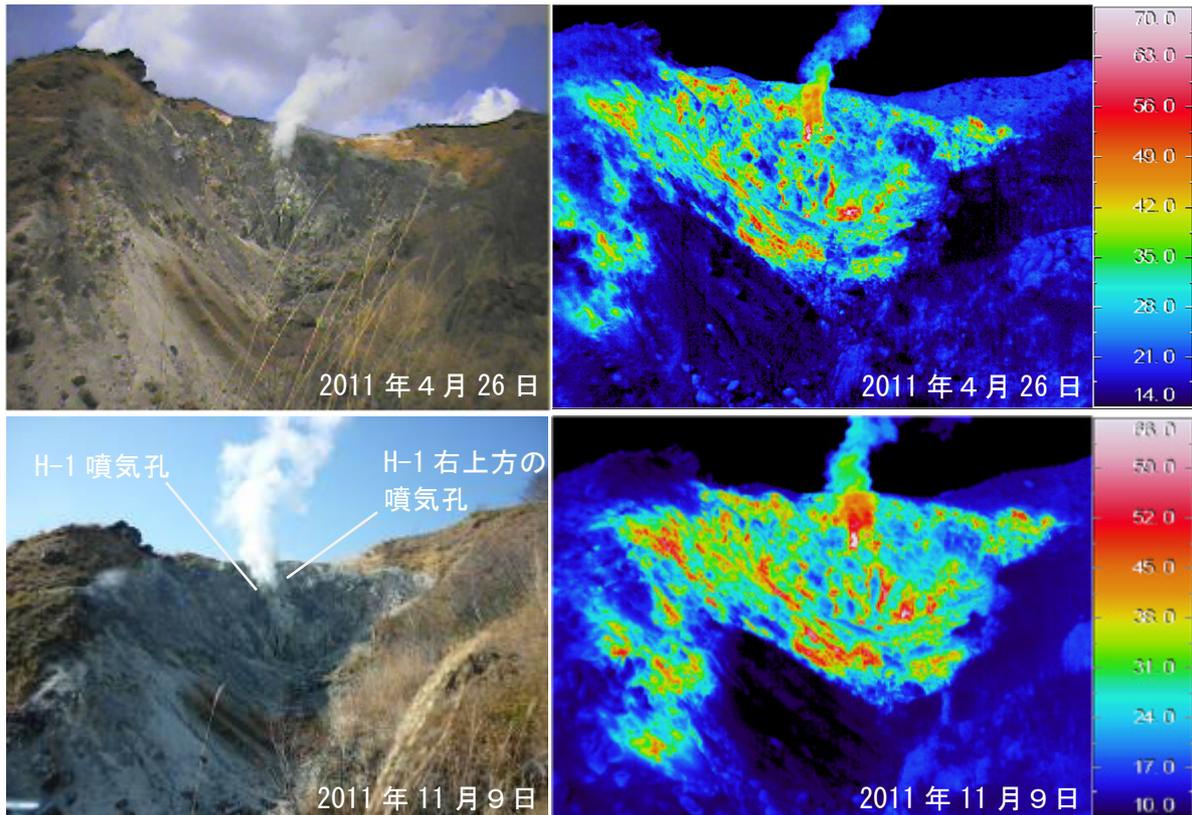


図 6 倶多楽 赤外熱映像装置¹⁾による日和山山頂爆裂火口の地表面温度分布
(図 2 の⑤方向から撮影)

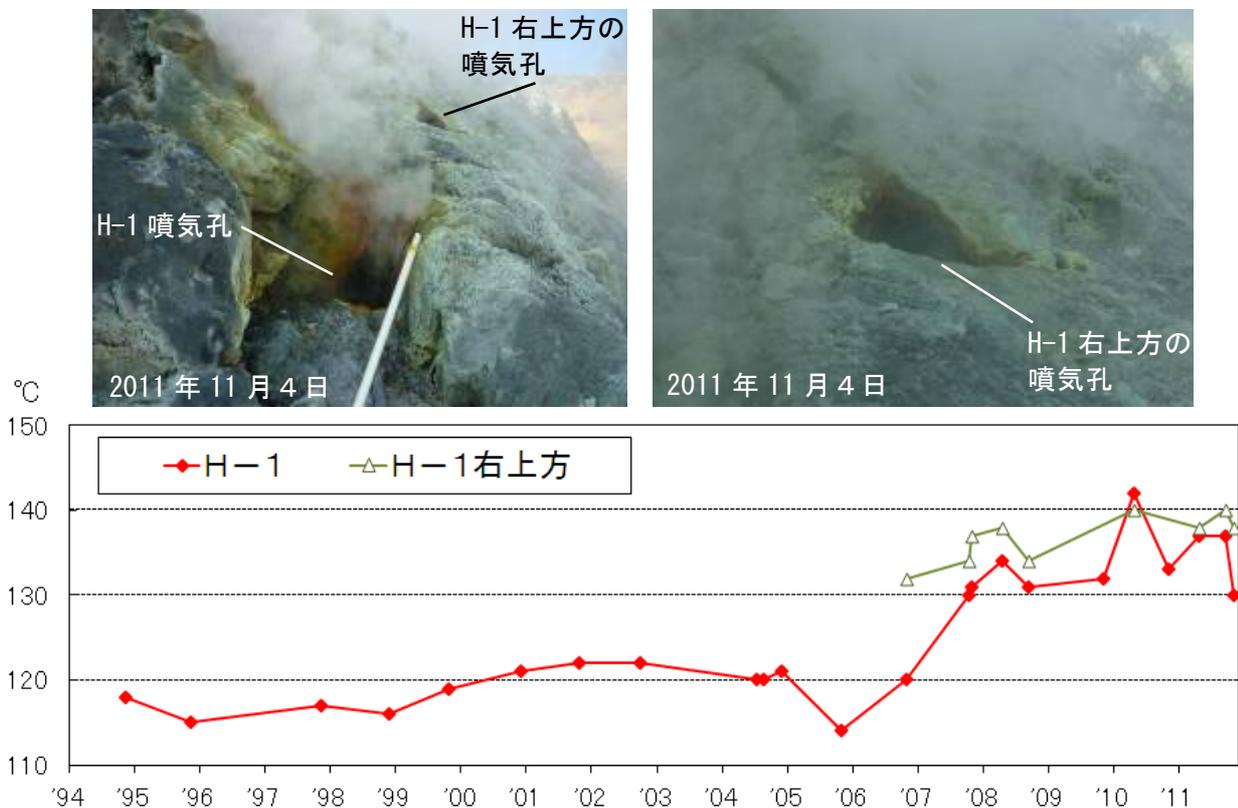


図 7 倶多楽 日和山山頂爆裂火口北西側噴気孔の状況及び噴気温度の推移
(1994 年～2011 年)

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図8 倶多楽 日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
(11月4日、414m山遠望カメラによる)

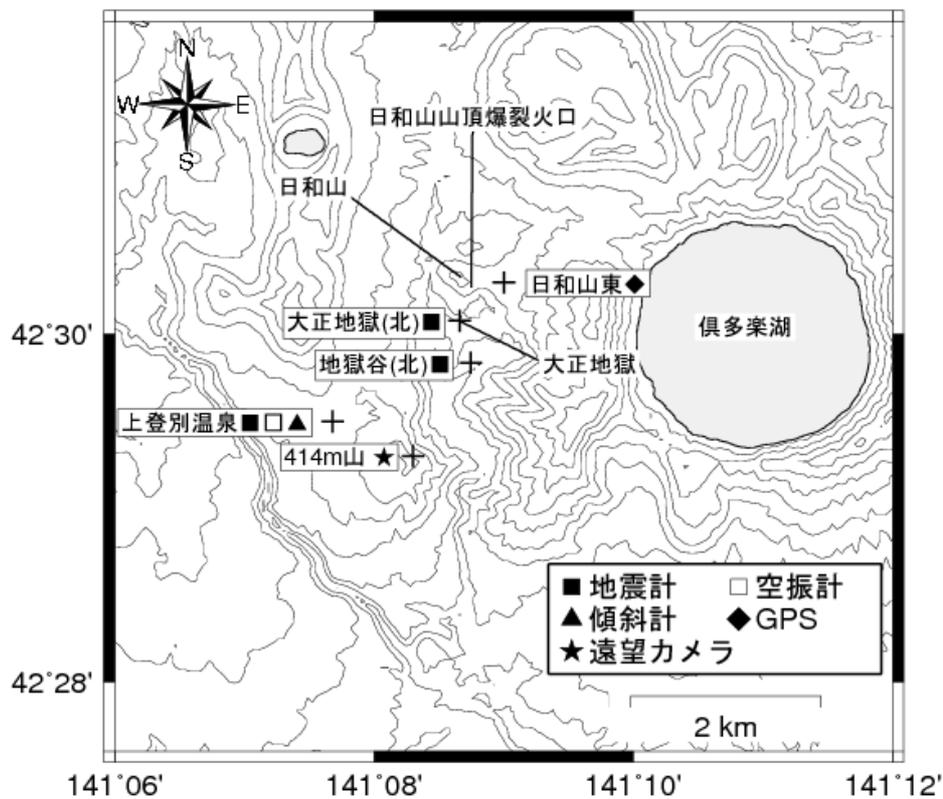


図9 倶多楽 観測点配置図

＋は観測点の位置を示します

他機関の観測点には以下の記号を付しています

(北)：北海道大学